

第9回「道の駅」第3ステージ推進委員会 議事概要

令和6年5月10日

○議事（１）前回（第8回）の主なご意見

（２）『「道の駅」第3ステージ』の定義

（評価室より資料1、2について説明。）

【徳山委員】

- ・大きな方向性はよい。
- ・第2ステージが進化した第2ステージプラスと第3ステージの違いを明確にしなければいけない。
- ・戦略的、組織的に第3ステージというものをつくっていく仕組みを見つけ出し、その仕組み強化して、ステージをどんどん上げていくことをやるべきである。

【山田委員】

- ・ステージの切替えとかということにはこだわらない方が良いのではないかな。
- ・第1ステージ、第2ステージの頃と大きく違うのは、人口減少、少子高齢化である。
- ・画一化されたモデルのような要件がそろった「道の駅」ではなくて、地域ごとの特性に合わせて柔軟なスタイルがあるような、自由度のある「道の駅」になるとその地域に本当に必要な「道の駅」が議論されていくのではないかな。

【根岸委員】

- ・第2ステージの「道の駅」の単独の発展だけではなく、まち全体の発展を意識してつくる段階に来ている。
- ・「道の駅」自身がまちづくりと非常に繋がってきているという段階に来ている。
- ・第3ステージのまちの発展、まちの全体の魅力を高める共通コンセプトはよいのではないかな。

【篠原委員】

- ・老朽化の中で経営が非常に厳しくなっている「道の駅」がある。
- ・まち全体の魅力を高めていくという大きなコンセプトは明確に出していくことが必要ではないかな。
- ・今まで「道の駅」は自由な発想で自分たちがアレンジしていくことが発展の秘訣だったと

言われてきた。

- ・そこは大事にしながらも、他省庁とも連携し、取組に繋げていくべきでないか。

【原委員】

- ・第3ステージはネットワーク化で活力あるというようなことが一つのコンセプトになっていた。
- ・現在のイメージ図はまち一つの中に一つ「道の駅」があって、そことまちとの相互関係みたいな感じである。
- ・第3ステージのイメージ図とするならば、もう少し広域的なエリアのイメージと自治体の中にある「道の駅」のイメージの両方を組み合わせたようなイメージにするべきではないか。

【国崎委員】

- ・まちの発展をどのように考えていくのかというところについては、仕組みづくりが求められるのではないか。

【楓委員】

- ・まち全体の魅力を高める共通コンセプトということに関しては賛成である。
- ・まちぐるみの取組では住民の参画が重要で、住民がどのような位置づけになるのかが非常に重要である。
- ・住民と一緒に「道の駅」をつくっていくという姿勢がどこかで表現できれば良いのではないか。

【石田委員長】

- ・第3ステージを定義づけられたのは大賛成である。
- ・ただ、第1～第3ステージまで機能・役割が積み重ねられてきたものではなく機能が拡張されかつ高度化されていることが非常に重要なことである。
- ・「道の駅」もいろんなところに第1、2、3ステージとあるが、きっかけや勇気を与えてくれるような実例をどのように共有できるかということが非常に大事な仕組みである。
- ・下支えする伴走支援や都市計画などの制度への位置づけも、しっかり議論していく必要があるのではないか。

○議事（3）「道の駅」の防災機能の一層の強化

（評価室より資料3について説明。）

【根岸委員】

- ・災害時、広域的かつ緊急を要する対応、まさに生命を守る取組、政府の活動を考えたときに国の関与は非常に重要である。
- ・現在「防災道の駅」が39駅であり分布が心配である。
- ・「道の駅」の配置の問題はこれまでも議論になっており、国がある程度「防災道の駅」が必要であるとか、広域的な観点からも検討が必要ではないかなどと積極的に動いて良いのではないかな。

【楓委員】

- ・一般の利用者の方が「道の駅」の防災の機能に対してどのようなイメージを持っているのか、どのような機能を期待しているのかなどの調査を実施してみてはどうか。
- ・「防災道の駅」以外の「道の駅」に対しても期待が大きい場合、それぞれの「道の駅」が災害時にどのような受け入れが可能かを周知する必要がある。
- ・各々の駅がどの程度の防災上の役割を果たせるのかカテゴリー分けをするなど、一般の方に分かりやすく「道の駅」の防災機能の明確化を工夫する必要がある。

【山田委員】

- ・平常時と災害時で図式化されているが「防災道の駅」とその他の「道の駅」がどのような関係になっているのかということが非常に見えにくい。
- ・連絡調整会議は非常に大事であり、地域運営組織などの団体の方々をメンバーに入れて、平時から「道の駅」と災害時に地域住民がコミュニティの機能を保ちながらどう動けるかを話していくべきである。

【徳山委員】

- ・能登半島地震で見られた良い取組や上手くできなかった課題を整理して仕組み化していくべきである。
- ・連絡調整会議について、全国道の駅連絡会が既にあるため、別の会議体を作るのではなく、全国道の駅連絡会の機能強化とすべきではないか。
- ・コンテナについても、いざとなったら被災地に持っていく前提で国が支援することやネットワークを使って運用を機動的にやれるような仕組みにするなどが第3ステージ的である。
- ・上手く回すための仕組みまで考えられたら良いのではないかな。

【国崎委員】

- ・首都直下地震や南海トラフの巨大地震を鑑みて、必要なところに「防災道の駅」を作り増やしていくことが必要ではないか。
- ・どのような周知をしたら本来の「防災道の駅」の機能を十分に伝えられて、協力してもらえるのかということも「防災道の駅」のサインの中で考えていく必要はある。
- ・「防災道の駅」以外の「道の駅」でも、最小限の防災機能はあるのだというところは位置づけていくべきである。
- ・BCPの策定促進のため、課題を具体的にどのように解決していくのか。
- ・BCPの限界も「道の駅」の特性上あるとも考えており、BCPガイドラインにあるようにファーストミッションボックスの導入を進めていくことも検討するべきである。

【豊田委員】

- ・「防災道の駅」サインに関して、運転のナビアプリと、あるいはウォーニングサインのナビとかとの連携も非常に重要になっていくのではないか。
- (ウォーニング：地震情報や豪雨予報などの防災アプリの警告アラート)

【堀内委員】

- ・震災等が起きた場合、発生した地域で「道の駅」がどんな役割を果たしていくかが重要である。
- ・「道の駅」間のネットワークは非常に有益だが、各地域内での連携に向けて、既存の機関との役割分担のあり方を整理すると問題が起きたときのスムーズな機能の分担につながると期待する。

【篠原委員】

- ・地域防災の全体の中で「道の駅」を語るときは、その地域の中の防災計画に市町村と一緒にやるといった抜本的な仕組みを変えていくべき。

【原委員】

- ・「道の駅」に常駐する人員はかなり限られているため、「道の駅」が防災機能を発揮されるための、日常的に地域コミュニティとの関係で協力体制などを含めて構築していくほうが現実的ではないか。

【石田委員長】

- ・「防災道の駅」は基地となる考え方の整理はすべきである。
- ・「道の駅」の防災機能は非常に重要だが、「道の駅」で全部できるわけではない。

- ・まちと一緒にやっていく仕組みをつくるべく、ケーススタディをしてみてもいいのではな
いか。
- ・「防災道の駅」が39駅では足りないのは理解するが、広域道路に接する186駅に増え
たとしても守備範囲は広い。
- ・配置はどうあるべきかを真剣に考えないといけない。
- ・国としての意志を示すことも非常に大きな仕組みづくりである。
- ・「道の駅」は経営や人手不足で大変なため、「道の駅」同士のネットワークが非常に重要に
なってくる。
- ・まちとのコミュニケーションなどの支援はできないか。

○議事（４）『「道の駅」第３ステージ中間評価と今後の方向性』とりまとめイメージ
（評価室より資料４について説明。）

【徳山委員】

- ・地域ということが第３ステージのある程度の方向性である。
- ・次回はうまくいっている例だけでなく課題を示し、モデルプロジェクトの「もてぎ」や「と
みうら」でうまくいきかけている良い取組やその実現に必要な仕組みを整理してほしい。

【石田委員長】

- ・国土形成計画の目玉の一つに地域生活圏というものがある、そこで「道の駅」の何が期
待されるのかということは非常に大事なポイントであるため、整理してほしい。

— 了 —